

1 研究主題

調べ、考え、表現する力を育てる指導

～思考力、判断力、表現力をはぐくむ言語活動の充実を通して～

2 授業研究部会 共通テーマ

「自らの考えを深め、表現する力をはぐくむ指導法の在り方」

3 国語科の果たす役割は？

「小学校・中学校・高等学校を通じて、言語の教育としての立場を一層重視し、実生活で生きてはたらし、各教科等の基本ともなる国語の能力を身に付けること・・・言葉を通して的確に理解し、論理的に思考し表現する能力、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成すること・・・」

【中央教育審議会答申における国語科の改善の基本方針より】

4 本時の国語科の提案授業とのかかわり

(1) 本単元の学習終了後、本時の学習終了後、生徒にどんな力が身に付いていればいいのか？

「どんなことができるようになっていればいいのですか？」

教師は「」

生徒は「」

単元で身に付けさせる力、本時で身に付けさせる力を明確にして授業を展開することが大切なのではないのでしょうか。【指導事項の明確化】

単元の導入で、本時の導入で、生徒に

「この単元の学習が終わったとき、○○○ができればいいんだよ。」

「この1時間の学習が終わったとき、○○○ができれば（分かれば）いいんだよ。」

さらに、

「○○○ができればA、△△△ができればB、Bまでできるようにするにはどうしたらいいか、何をしたらいいか分からない人は先生に相談！」と授業の始まり（活動の始まり）に評価の尺度を伝えてみてはどうでしょうか。

つまり、評価の規準（一般的にはB規準）と評価の尺度を教師と生徒が共有するということです。

(2) 身に付けるべき力（目標）が明確になったら、その目標に到達させるための工夫が必要。

① まずは単元計画（単元の構想）

指導すべき事項があって、目の前の生徒の実態がある・・・どのような学習活動の中で何をどのように指導するのか。

② 年間計画との関連

例えば、国語科の学習。1学期、2学期、3学期にそれぞれ配列されている文学的文章、説明的文章で、それぞれの時期に身に付けさせるべき力は少しずつ異なっていて、学んだ力・身に付けた力を生かして次の学習につないでいくはず。「知識・技能」の習得→「活用」

【資料① 小学校国語科 「読む 文学」「読む 説明文」】

そして、指導は9年間を見通して。

【資料② 「読むこと 9年間の目標と指導内容・・・小学校学習指導要領解説 国語編より」】

③ 到達目標を達成するための具体的な手立てを示すこと→教師の仕事

【資料③ 「手引きを示す」ということ・・・月刊 「国語教育研究」5月号】

～大村はま先生の言葉から～

(1) のBまでの到達方法、手順や方法が分からない生徒→「学習の手引き」「学び合い」

(3) 生徒に学習意欲を喚起し、活動意欲を継続させ、充実感や満足感を味わわせる単元構成の一例として、こんな考え方もあります。

① 「話すこと・聞くこと」の単元だったら

- 話したいことがある！話したいことが決まった！（学習意欲の喚起）
- 話し方が分かった！（学習方法の理解）
- 話してよかった！（発表や相互評価などによる充実感・満足感）

② 「読むこと」の単元だったら

- 読みたいものがある！読みたいものが決まった！
- 読み方が分かった！
- 読んでよかった！

③ 「書くこと」の単元だったら

- 書きたいことがある！書きたいことが決まった！
- 書き方が分かった！
- 書いてよかった！

と生徒が感じるような単元を構成してみると、生徒の学習への取り組み方が違ってきます。そのためには、「指導事項」を考え、実態を考え、そのための魅力的な教材発掘や「教材との出合わせ方」の工夫が必要です。特に、**教科書を読むことに必要感**を持たせることができたらいいですね。

(4) 「発問力」・・・身に付けたい技術です。

【資料④ 「発問」って案外難しい！・・・「国語教育相談室 小学校No.64 光村図書」】

※ 「『何が知りたいの。』と発問の意図を問われて」・・・読んでみてください。

(5) 国語科と他教科や領域との関連

① 小学校では、考える力を育てる「知的活動の基盤」として、言語活動が他教科や領域と密接に関連しています。

【資料⑤ 言語活動教科関連表・・・「東京書籍」】

② 具体的な指導例・・・「鑑賞文を書く。」

【資料⑥ 「短歌の鑑賞文を書こう」】・・・「鑑賞文」って何？

【資料⑦ 一人ひとりに、より豊かな言葉を！】

③ 「国際理解・平和、伝統・文化、人権・福祉、健康・安全」教科関連表【資料⑧】

・・・社会・地図を中心にして。

「環境」教科関連表・・・理科を中心にして。